


科目名	教育実践講究 I (省察的実践) 英語名 : Special Seminar on Theory for Reflective Practices in Educational settings	必修/選択	必修	
		単位数	2 単位	
		担当教員	三輪 建二	
【授業概要】				
<p>本科目では、実践に根差した自律的な研究が行えるよう、実践と理論の往還の観点から、「省察的実践」の理論を修得し、身につけることを目標とする。</p> <p>具体的には、①省察的実践の理論を学び、修得することを通して、②自身の専門分野の知識・技能を生かしつつ、教育に関する実践と理論を往還して自律的に研究を遂行する能力を身につけること、及び、③教育の現場における課題を本質的問いとして提示し、実践から応用可能な理論を導く能力を持つことをねらいとする。なお、①の省察的実践の修得においては、理論として学ぶだけでなく、スクーリングの機会等を活用し、多様な職種とのディスカッションを通して、実践をめぐる自分の認識の「フレーム (枠組み)」とその偏りに気づき、省察するというフレーム分析を行う。</p> <p>省察的実践の修得を通して、自らの実践や職務の省察を踏まえ、研究課題の抽出と研究テーマの設定ができることを目標とする。</p>				
【キーワード】				
対人関係専門職、成人学習、省察的実践、フレーム分析、実践研究				
【授業の到達目標】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. 省察的実践に関する基本的理解、及び受講者がお互いに自身の実践を省察し、相互に検討し合うことを通して、省察を理論的にも実践的にも理解できるようになる。 2. 省察的実践の理論の修得を通し、自身の専門分野の知識・技能を生かしつつ、教育に関する実践と理論を往還して自律的に研究を遂行する能力を持つようになる。 3. 省察的実践の理論の修得を通して、教育の現場における課題を本質的問いとして提示し、実践から応用可能な理論を導く能力を持ち、研究課題の抽出と研究テーマの設定ができるようになる。 				
【教育の方法】				
スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】				
【授業計画】				
回	内 容			
1	I 教育研究を行う意味 〔スクーリング 1 : 3 時間〕 ・オリエンテーション 本授業のねらいと概要			
2	・対人関係専門職が教育研究を行う意味・研究倫理をめぐる省察 (講義)			
3	〔通信教育〕 ・研究を行う意味の整理 (ウォレス『教師がまとめる研究論文』第 1 章 (PDF))			
4	・研究倫理 (ウォレス 第 2 章 PDF)			
5	II 政策文書のイデオロギー分析と省察 〔スクーリング 2 : 3 時間〕 ・政策文書などの検討とイデオロギー分析 (講義)			
6	・テキスト分析と省察をめぐるディスカッション			
7	〔通信教育〕 ・政策文書・テキスト分析をめぐる理論的整理 (ウォレス 第 8 章 PDF)			
8	・自身の分析枠組みをめぐる省察と整理			
9	III 省察的実践論 ・省察的実践の理論の整理 (ショーン『省察的実践とは何か』 PDF) ・省察、省察的実践の理論 (講義)			

10	〔通信教育〕 ・省察的実践論の理論的整理（ラシュトン他『教師の省察的実践』 PDF）
11	・自己の省察的実践（アップルヤード『教師の能力開発』 PDF）
12	・省察的実践の理論の整理（ショーン『省察的実践とは何か』 PDF） 〔スクーリング3：3時間〕 ・省察、省察的実践の理論（講義）とディスカッション
13	〔通信教育〕 ・省察的実践と自己のメンタルマップ、ダブルループ学習の省察と整理
14	IV 研究テーマの設定と研究計画の作成 〔スクーリング4：3時間〕 ・研究テーマの設定と研究計画（講義）（ウォレス 第3章、第10章 PDF） ・研究テーマの設定と研究計画をめぐるディスカッション
15	・全体のまとめ（講義とディスカッション）
試験	
【履修にあたっての準備・履修上の注意点】 指定したテキストを読み、理解を深めておく。テキストについてはオリエンテーション時に指示する。	
【スクーリングでの学修内容】 スクーリングは4回に分けて実施し、合計8コマ12時間をめどに行う。 初期のスクーリング（3時間）では、授業のねらいと教育研究の意味について講義と検討を行う。 2回目のスクーリング（3時間）では、教育研究で取り上げられることの多い「教育政策文書」の批判的検討を行い、各自の教育政策文書の取り扱い方について検討を行う。 3回目のスクーリング（3時間）では、研究を遂行するにあたっての各自の省察、省察的実践について講義を行い、各自の省察的実践（ダブルループ学習など）について検討を行う。 4回目のスクーリング（3時間）では、以上の検討をふまえた上で、各自が研究テーマを設定し、それについてお互いに検討する。そして学修の成果についてのまとめの講義を行う。 スクーリング後には、学修全体の成果をふまえて、科目修得試験のレポート作成にあたる。	
【評価方法】 スクーリングでのディスカッション・発表（10%）、レポート（40%）、科目修得試験（50%）で評価する。成績評価の際には、スクーリングでの学修や学修過程での姿勢を含めて総合的に評価する。	
【テキスト】 S・ウォレス（三輪訳）『教師がまとめる研究論文ー量的研究・質的研究・アクションリサーチ』鳳書房、2020年 *教員メッセージを参照のこと I・ラシュトン、M・スター（三輪訳）『教師の省察的実践ー学校教育と生涯学習』鳳書房、2018年 K&N・アップルヤード（三輪訳）『教師の能力開発-省察とアクションリサーチ』鳳書房、2018年	
【参考図書】 D・ショーン（柳沢、三輪監訳）『省察的実践とは何か』鳳書房、2007年 三輪建二『おとなの学びとは何かー共生社会の学び合い』鳳書房、2018年 今津孝次郎『教師が育つ条件』岩波書店、2012年 その他、学生の専門領域に合わせて指定する。	
【教員メッセージ】 ・テキストのウォレス（2020）は刊行が5月下旬のため、該当箇所をPDFにして配布します。4月のオリエンテーション時での指示に従うこと。 ・研究テーマやリサーチ・クエスチョンをすでに決めて参加している方もおりますが、研究課題や研究テーマの省察と再吟味が必要ではということから、省察的実践について学びます。 ・自身の実践とフレーム（枠組み）の省察と再吟味をふまえて、研究課題や研究テーマ、さらには研究計画を立てるという基礎作業となることから、必修科目に位置づけられます。 ・スクーリングでは、ディスカッションを通して異職種間の学び合いによる省察を行います。	
【備考】 特記事項なし	